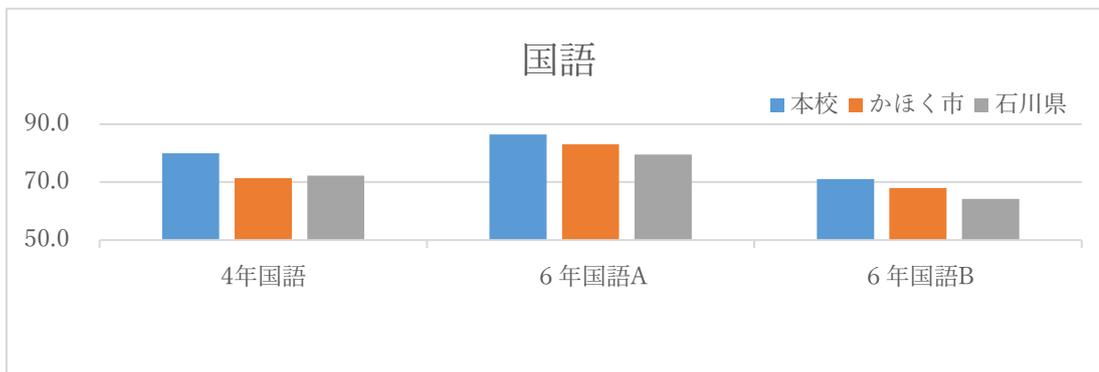


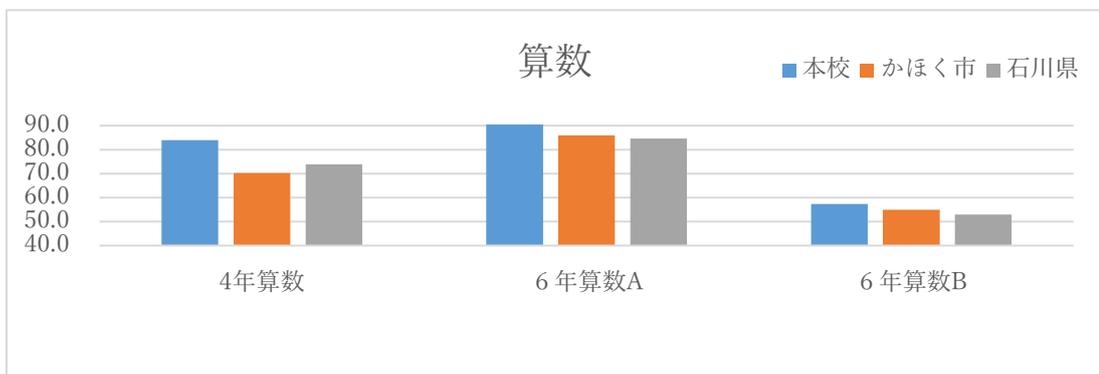
平成 30 年度 全国学力・学習状況調査（6 年）結果



○国語 A では、昨年度の本校 6 年生に比べ若干正答率が下がったものの、全国 2 位だった石川県の正答率をさらに上回った。

●漢字の書き取り以外で県の正答率を、わずかではあるが下回ったのは 1 問だけだった。慣用句の意味と使い方として適切なものを選択できるようにしていく。

◎国語 B では、全国 1 位だった石川県の正答率を、すべての設問で上回った。今後も、継続して学力向上に努めていく。

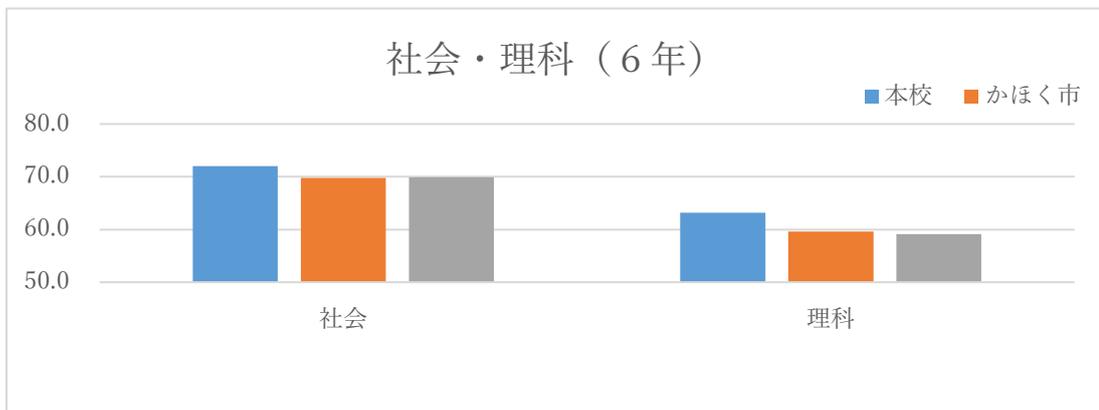


○算数 A では、昨年度の本校 6 年生に比べ若干正答率が下がったものの、全国 1 位だった石川県の正答率をさらに上回った。

●見えてきた課題は、単体量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の説明や、円周率の理解が浅いことが挙げられる。

◎算数 B では、昨年度に比べ県平均は下がっているのに、本校の正答率は逆に上がっている。しかも、全国 1 位だった石川県の正答率を、すべての設問で上回った。今後も、継続して学力向上に努めていく。

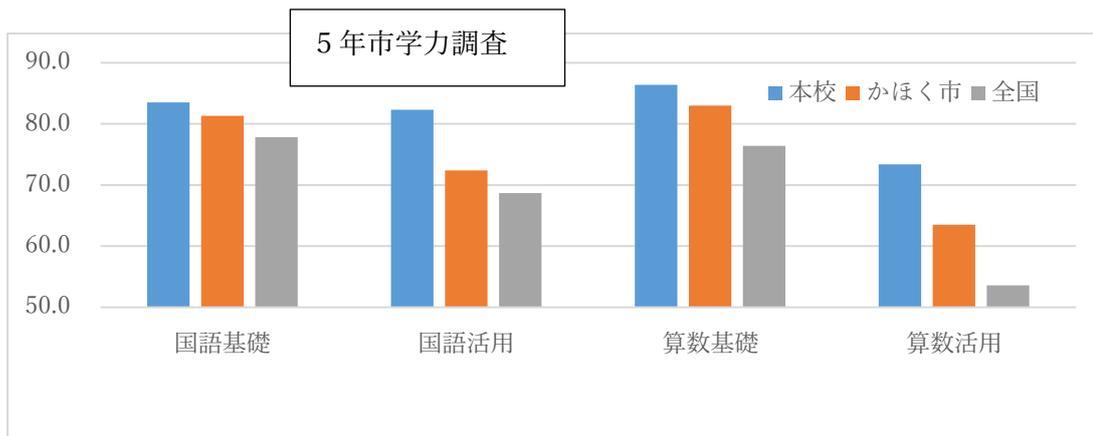
○国語も算数も、本校の 6 年生は、基礎学力より活用力に強みがあるようだ。



◎6 年社会では、昨年度に比べ県平均は下がっているのに、本校の正答率は逆に上がっている。今後も、継続して学力向上に努めていく。

◎6 年理科では、全国 1 位だった石川県の正答率を、全 16 問中 13 問の設問で上回った。今後も、継続して学

力向上に努めていく。



○全く同じ問題ではないので単純に比較はできないが、5年生の学力調査の正答率は、国語も算数も昨年度を下回ったものの、かほく市の正答率は上回った。全体的な底上げを継続して取り組んでいくと同時に、発展的な学習にも適宜取り組ませたい。そのために、関連単元での授業改善、あっぷUPタイムでの取組、家庭学習や自学での取組を見直し、計画的・効率的に取り組んでいく。特に国語では、以下の2点について重点的に取り組んでいく。

- メモの取り方と、話の大まかな内容の要約。
- 資料を読み取って、簡潔に書き表す。

算数の弱点は以下の3点である。

- 図と長い設問の読み取りができていない。数字が大きいと計算に抵抗がある。
- 四捨五入した後の数の範囲について理解が足りない。
- 「 $m \times m$ 」を「 km^2 」で表す学習ができていない。